

人と環境すべてにやさしい農業の追究
～「人が集う拠点」づくりの実現に向けて～

株式会社マイスター 代表取締役 鈴木秀男（川西町）

1 受賞者の概要

平成元年に親元就農し、平成22年に福祉施設を退職後は水稲、えだまめ、さくらんぼ等の複合経営に取り組んでいる。平成30年11月、将来の担い手の受け皿となるべく「株式会社マイスター」を設立し、令和4年からは40代の社員1名を通年雇用し、次代の担い手育成を進めている。海外派遣留学や福祉施設での経験から、学生や消費者向けの農業体験の受け入れを積極的に行う等、より多くの消費者に喜んでもらえる「人にやさしい農業」の実現を目指している。



鈴木秀男氏

2 特色ある活動

(1) 栽培面積の拡大と複合経営による経営の安定化

近隣地域の農業者からの依頼を受け、水稲11ha、枝豆7ha、さくらんぼ1.2haまで規模拡大を進めている。枝豆は出荷時期の異なる品種の作付けや精密選別機の導入により作業分散、選別作業の効率化を図っている。

(2) 環境に配慮した生産体制の確立

水稲は農薬や化学肥料の使用を半分に抑えた特別栽培米の生産に取り組んでいる。さくらんぼでも土づくりや化学肥料、化学農薬使用の低減に取り組み、平成15年には水稲とさくらんぼでエコファーマーの認定を取得した。

(3) さくらんぼ新品種の生産とオーナー制度の導入

「佐藤錦」に加え、「紅秀峰」「やまがた紅王」の作付けにもいち早く取り組んできた。平成29年からは樹のオーナー制度を導入し、収穫体験を通じて消費者とのつながりを築いてきた。

(4) 農業体験や地域おこし協力隊の受入れ等の地域貢献活動

コロナ禍以前には、関東圏の中学生の農業体験を受け入れ、未来の農業の担い手づくりに取り組んだ。令和4年には、一般消費者を対象とした枝豆の収穫体験等、農業体験の受け入れを積極的に行い、消費者の農業への関心を啓発している。令和3年から3年間、地域おこし協力隊1名を農業研修生として受け入れ、果樹を中心に実践的な農業技術と経営指導を行い、担い手育成に尽力した。

3 今後の発展方向

次世代への経営継承に向け、現在は直接的には法人経営に参画していない同氏の長男や社員と、同法人の中・長期的な将来ビジョンについて話し合いを進めている。①蒔地区で進行している基盤整備事業に対応し、農地の集積により省力化、効率化を図る。②農業未経験者であった社員に将来的に会社の中核を担ってもらべく、社員教育を進める。③国道整備事業により、東北中央自動車道へのアクセスが車で10分程度となることを見込み、同法人の「人が集う拠点」づくりを進めていく。